

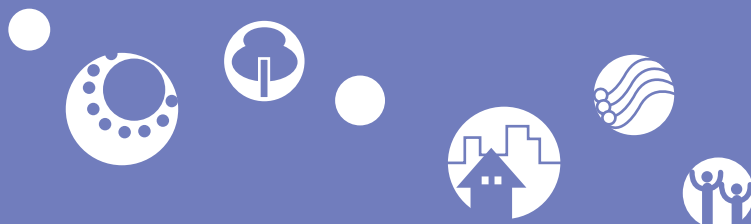
私たちは、住民・行政・事業者の強力なパートナーシップで、市民のまちづくりへの主体的な取り組みを支援する「越谷市住まい・まちづくり支援センター(仮称)」(以下、「支援センター」という。)の設立を目指し、7月から勉強会をスタートしました。今回5回目までの成果をもとに、いよいよ設立の具体的な準備に入ります。

当初構想で、「支援センター」組織はNPO法人か一般社団法人を考え、第1回目:全国のまちづくりセンターの歴史・現状と課題、2回目:越谷市第4次総合振興計画の施策との連動性などを勉強してきました。

そして、3回目の先進事例視察で訪ねた「柏の葉アーバンデザインセンター」で、柔らかな協議会的な仕組みを勉強したり、前回の市民事業と新しい公共を担う市民起業法人のお話を聞くうちに、発起人会では、組織のカタチよりもまずミッションが重要であり、それにあった仕組みを作る方が良いのではないかと、必要な組織の形態もおのずから答えが見えるのではないかと考えるようになりました。

第5回目、最後の勉強会では、越谷市に適した「支援センター」の仕組みについて考えてみたいと思います。越谷市の住民や行政の意識、地域的な特長や課題を踏まえ、さらに来年開設される越谷市の「市民活動支援センター」との関係や連携等も併せて、越谷市にあった支援センターの仕組みを考えます。また、新しい仕組み・組織にふさわしい名称なども考えたいと思います。

講師の東京理科大学非常勤講師 杉崎先生には、初回から関わって頂いておりますので、今までの総括も含めてお話を頂きます。



## 第5回勉強会

### 「越谷市に適した支援センターの仕組みについて」

平成24年1月13日(金) 18:30~20:30

越谷市中央市民会館第2会議室(越谷市越ヶ谷4-1-1 TEL. 048-966-6622)

- 講師:東京理科大学非常勤講師 杉崎 和久氏
- 主催:越谷市住まい・まちづくり支援センター(仮称)設立発起人会
- 後援:越谷市、越谷市街づくり協議会

#### 講師プロフィール

**杉崎 和久** (すぎさき かずひさ)

まちづくりコーディネーター、ファシリテーター 東京理科大学、駒沢女子大学、法政大学非常勤講師  
専門は都市計画、参加型まちづくり。

大学在学時より、東京都練馬区、埼玉県深谷市などの参加型計画策定や千葉県柏市の商店街まちづくりなどに関わる。

1973 東京都生まれ。

1999 東京理科大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了。

2004 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程単位取得退学、同大学院協力研究員。

2005-10 (財)練馬区都市整備公社まちづくりセンター専門研究員として市民によるまちづくりを支援するための仕組みづくりに従事。

現在、埼玉県所沢市街づくりアドバイザー、神奈川県大和市街づくり専門家、京都府宇治市まちづくり専門家、東京都杉並区まちづくりコンサルタント。

著書に「市民参加と合意形成」(共著 学芸出版社)、「住民主体の都市計画」(共著 学芸出版社)ほか。



今年度は、支援センター設立に向けて下記の活動を重ねてきました。5回の勉強会の成果をもとにいよいよ設立総会の準備中です。ご参加いただける方は連絡先・メンバー登録をお願いします。

- ①平成23年7月…勉強会「まちづくりセンターを取り巻く課題」東京理科大・杉崎和久氏
- ②平成23年9月…勉強会「越谷市第4次総合振興計画とその実施課題」越谷市担当職員
- ③平成23年10月…先進事例の視察「柏の葉アーバンデザインセンター」
- ④平成23年11月…勉強会「越谷市における市民事業の可能性と課題」NPOまちぼっと・奥田裕之氏
- ⑤平成24年1月…勉強会「越谷市に適した支援センターの仕組みについて」東京理科大・杉崎和久氏
- ⑥平成24年3月…設立総会「記念講演 新しい公共を拓くまちづくり」



※参加ご希望の方は、本チラシ裏面の参加申込書にご記入の上、FAXするか、メールにてお申込みください。

# 勉強会の成果と今後の方針

これまで4回にわたる勉強会・視察で得た情報や、参加者アンケート等を通じて、「支援センター」構想を実現するために、下記のような課題があることが明らかになってきました。



1. 市民意識: 行政主導のまちづくりに慣れてしまい、自らが主体となって実行する意欲が希薄。危機感が不足し、景観や住環境の改善に関する意識が低い。
2. 行政の対応: 従来型の総合振興計画を主体としたまちづくりから脱却できない。自治基本条例が制定され、市民主権で協働によるまちづくりを推進することになっているが、市民やNPO団体との信頼関係や経験が不足しており、新しい公共の担い手がまだまだ育っていない。
3. 越谷市街づくり協議会のスタンス: そもそも今回の支援センター構想は、同会が実施した国交省の助成事業により「越谷市建築協定フォーラム」を設置したことに始まる。この運営を安定的に継続する主体が必要となったが、同会は任意団体であり、設立趣旨が多少異なるため、同会を法人化することに無理があった。そこで「支援センター」を立ち上げることになったが、同会に良く理解できるような仕組みが提案がされていない。
4. 周囲の理解度: その他参加やバックアップを求めたい団体: 企業にわかりやすい説明がなされていない。また、当初計画が盛りだくさんで、全てのことが同時進行するような誤解があり、構想が大きすぎて実現可能なか？市民ニーズが無いのではないか？との意見もある。

以上のような理由から、本格的な設立準備に向けて少々修正が必要で、もっと解りやすいモデルとロードマップを作成することにしました。

## ●仕組み・概念図を修正

「支援センター」が取り組もうとしている活動内容を整理してみると、大きく2種類に分けられます。一つは「越谷市建築協定フォーラム」のように、行政と協力して良好な住環境の維持管理を支援する等の活動(以下「Aタイプ」という)。これには景観まちづくり活動も含まれます。

もう一つは、地域コミュニティや地域経済の活性化を図る実践的な活動(以下「Bタイプ」という)。これは実際に市民事業を行う組織であり、その形態や構成員はAタイプとは異なることが予測されます。

したがって、一つの組織で両方を実施することは難しく、また矛盾も生じます。例えば、越谷市にとってみれば、Aタイプの活動は支援できるが、Bタイプの組織に参加することは難しい。「支援センター」の活動に協力・参加しようとする企業にとっても、同様のことがいえます。

この問題を解決するため、第3回で視察した「柏の葉アーバンデザインセンター」を参考にして、下図のような概念図を新たに組み立ててみました。

○Aタイプの活動を支援するため「(仮)越谷市住まい・まちづくり協議会」または「(仮)住まい・まちづくりフォーラム」という法人格のない協議会を設立。この協議会を構成する団体で運営委員会を組織し、運営にあたります。

○そこで、この構成団体の一員となる法人格を持つ「(仮)住まい・まちづくり支援機構」(以下「支援機構」という。)を今年度に設立します。この支援機構の組織は一般社団法人かNPO法人を検討します。

○さらに協力団体を広く募り、運営会議に参加してもらい、テーマごとに研究・調査を行い、市民事業を行う組織を作り出していきます。これがBタイプの活動を支えていきます。

○ロードマップとして、今年度に支援機構を設立、来年度に協議会を設置し、3年後を目標に市民事業を担う組織を立ち上げていきます。

## ●将来の目標

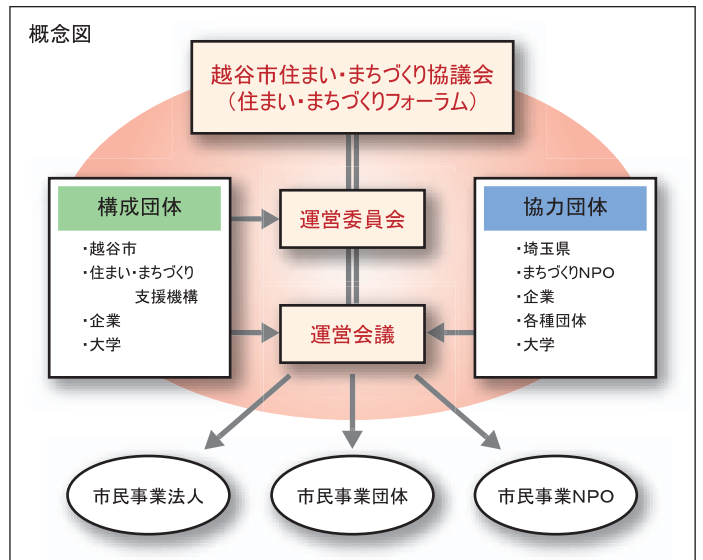
将来、自立したサステナブルなスマートシティを目標とすると、埼玉県東南部都市連絡調整会議が目指す5市1町による政令市を構想としたまちづくりが必要となります。折しも同調整会議の設立20周年記念事業として「みんなであつこう！5市1町の魅力アップシンポジウム」が来年2月12日に開催されます。今回設置を目指す協議会も、越谷市と共に草加市、三郷市、八潮市、吉川市、松伏町が参加できる仕組み・名称を考えたいと思います。

## ●今年度設立に向けて

以上の流れから第5回勉強会は、発起人会が新たに提案する「支援センター」の概念図、目標とそのロードマップ等を説明し、講師の杉崎先生からコメントや他のセンター等の仕組みについての情報提供をいただきながら、「越谷市に適した支援センターの仕組みについて」考えます。

第6回は設立総会を予定していますので、この機会にまちづくりの実践とその支援を求める市民の皆さん、行政、研究者・専門家、事業者、それぞれの立場の皆さんから、ご意見や要望をお聞かせいただいて、三者協働のまちづくりを進めていきたいと思ひます。

皆さまのご参加をお待ちしています。



お申込み・お問合せ先／越谷市住まい・まちづくり支援センター(仮称)設立発起人会 代表:若色欣爾 越谷市宮本町2-185-12(株)ガイア住環境技術研究所内  
TEL. 048-966-8015 FAX. 048-966-7066 E-mail : wakairo@dream.com

(ふりがな)  
お名前

ご住所 〒

TEL. FAX.

ご所属

E-mail:

- 同行者がいます。(計 名)
- 今後もメール等で案内を送って欲しい。
- その他通信欄( )